

過去7年間における精神科外来の 患者動態調査

高橋 剛夫, 石川 香世子, 野田 厚子
杉山 まき子, 佐藤 祥子

はじめに

仙台市立病院精神科は昭和55年7月1日, 新病院での診療開始とともにスタートし, 以来, 7年が経過した。

今回われわれは, 当科が本院で果たしている役割と実状を知り, 合わせて今後のあり方を考える一資料とする目的で, 当科における過去7年間の新患と再来の患者動態調査を行なった。

結果

1. 新患者

7年間の年度別新患者数を示したのが図1である。55年度には当科が開設された7~12月迄の6カ月間の受診数を示したが, それを除外した56~61年度迄の6年間における年間平均新患者数は542人であった。新患者を① 直接受診, ② 院内紹介, ③ 院外紹介, に三分して比較すると図の

ように①と②で大半を占めており, しかも②は若干増加する傾向を示していた。55年度を除く平均百分率は① 42%, ② 45%, ③ 13%であった。なお, 院内紹介では内科からののがもっとも多く, 平均58%であった。

7年間の新患者数の合計は3,549人であった。それを診断別に示したのが図2であり, 神経症1534

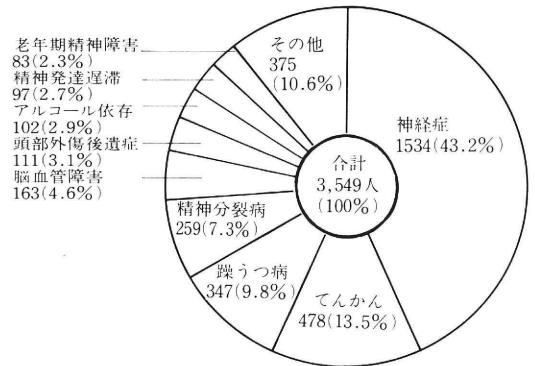


図2. 7年間における総新患者の診断別比較

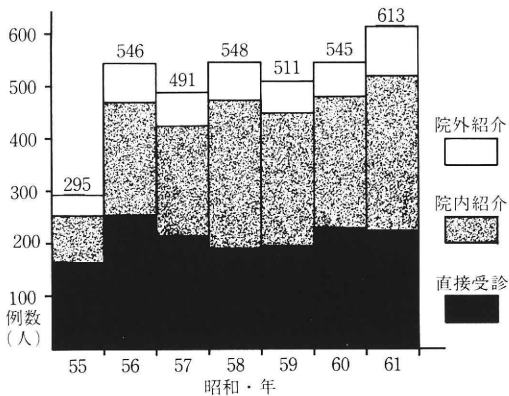


図1. 年度別新患者数

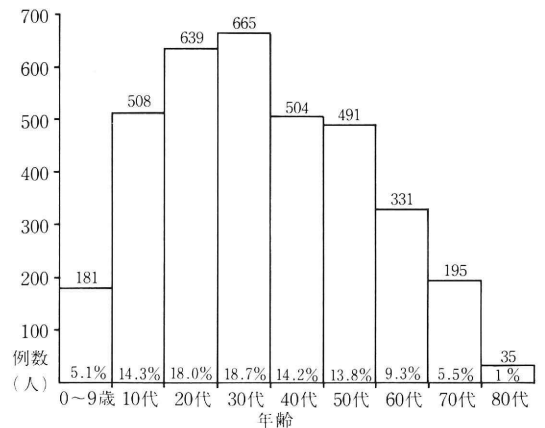


図3. 7年間における総新患者の年齢別比較

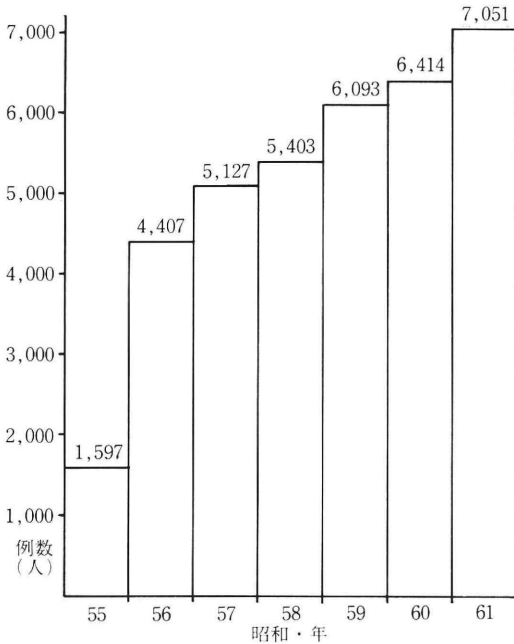


図4. 年度別再来患者数

(43.2%), てんかん 478 (13.5%), 躁うつ病 347 (9.8%), 精神分裂病 259 (7.3%), 脳血管障害 163 (4.6%), 頭部外傷後遺症 111 (3.1%), アルコール依存 102 (2.9%), 精神発達遅滞 97 (2.7%), 老年期精神障害 83 (2.3%), その他 375 (10.6%)人の順であり、神経症がもっとも多かった。

図3は、総新患者 3,549 人の年齢別比較を示したものである。30代の新患者が 665 人(18.7%)と最も多く、ついで 20代, 10代, 40代, 50代の順になっていた。

2. 再来患者

各年度別の再来患者数を示したのが図4である。とくに 56 年度からは毎年その数を増してお

り、61 年度には 7,051 人に及んでいた。

考察とまとめ

今回の動態調査結果は、以下のように要約される。

1. 年間の新患者数平均は 542 人であり、その 45% が院内紹介, 42% が直接受診, 13% が院外紹介であった。

2. 7 年間の新患者数は 3,549 人であり、その 43.2% が神経症, 13.5% がてんかんで大半を占め、ついで 9.8% が躁うつ病, 7.3% が精神分裂病, その他の順であった。

3. 新患者の年齢別比較では 30 代(18.7%)>20 代 (18.0%)>10 代 (14.3%)>40 代 (14.2%)>50 代 (13.8%)>60 代 (9.3%)>70 代 (5.5%)9 歳以下 (5.1%)の順で、30 代がもっとも多かった。

4. 年度別再来患者数は年ごとに増加しており、61 年度は 7,051 人に及んだ。

さて、当科における外来診療の実状をふりかえって強く感じることは、老年期精神障害者の漸増である。その他の問題もあるが、これらを詳しく把握した報告は別の機会に譲りたい。なお、入院治療が必要なため、他の精神病院へ紹介した昭和 62 年度の患者数は 33 名であった。

われわれにとって何よりも切実な問題は、開設当初と同一条件、すなわち病床なしで外来診療を行うことの難しさがいつも持続していることである。時代の要請に少しでも対応できるようなこれからの精神科医療を考えると、外来と病床の両輪を持つ本来の精神科の実現が、この仙台市立病院に切に望まれるのである。

(昭和 62 年 12 月 16 日受理)